

リスク管理

18世紀の産業革命以降、社会構造は産業社会へ移行したといわれる。そして20世紀後半頃から情報社会への展望が語られるようになった。一般に情報社会とは、政治、経済、文化、生活等において情報化が進みつつある社会構造を指す。とりわけ経済の情報化について

一年間にわたって連載してきた本欄では、ITとリスクマネジメントとのかわりを軸に、「情報セキュリティ」「情報システム構築運用におけるリスク」「IT統制」などのテーマを取り上げた。いずれもITにおける重要なテーマではあるが、今回は少し視点を変えて、情報社会とリスクマネジメントについて考えてみたい。

リスクマネジメント

ABC

情報社会とリスクマネジメント

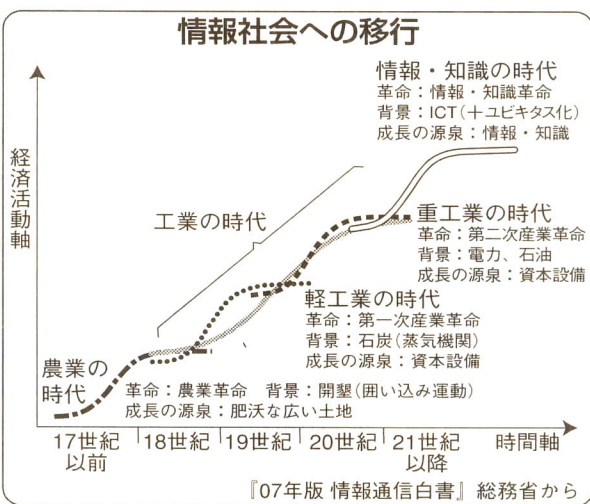
不確実性を識別・制御

では盛んに議論されており、情報産業の国内総生産(GDP)に占める割合の増加、情報産業への就労者の増加、情報産業の成長による経済成長率への寄与などが分析されている。

産業社会では生産力が高くなり、情報産業の国内総生産(GDP)に占める割合の増加、情報産業への就労者の増加、情報産業の成長による経済成長率への寄与などが分析されている。

産業社会では生産力が高くなり、情報産業の国内総生産(GDP)に占める割合の増加、情報産業への就労者の増加、情報産業の成長による経済成長率への寄与などが分析されている。

産業社会では生産力が高くなり、情報産業の国内総生産(GDP)に占める割合の増加、情報産業への就労者の増加、情報産業の成長による経済成長率への寄与などが分析されている。



情報社会の概念を歩を進め「知識社会」への移行、知識労働者の出現を論じた。

ところで、情報社会における情報は、それを適切に識別、管理、制御できなければ極めて容易にリスクとなる。情報理論には「情報量」という概念がある。情報量の大小は、不確実性の高低のことである。例えば「犬が人をかむ」という情報の情報量は小さく、「人が犬をかむ」という情報の情報量は大きい。情報量が大きい、すなわち不確実性が高い情報は、リスクが高いことを示すものであり、これを適正に、かつ効率的にコントロールすることが、等しくリスクマネジメントと言える。

思い起せば情報技術の進化発展は軍事と密接に関連してきたのであり、情報化がリスクマネジメントと深い関係にあることが理解できる。情報の制御の失敗が社会に与える影響は極めて大きい。現代では情報技術が飛躍的に進歩したが、一方で、例えばサブプライムローン問題にみられるように、一国の住宅ローンのデフォルトが世界レベルで金融不安、信用収縮を引き起こす社会構造ができあがってしまっている。膨大かつ複雑に関連し合った情報をいかにして管理、制御するか。情報社会におけるリスクマネジメントの重要性はますます、高まっているのである。

(日本総合研究所)